

「三重県工業研究所の津高等技術学校との一体整備を含む建替え再整備基本計画（中間案）」
に対するご意見と県の考え方

○意見募集期間：令和6年12月13日（金）から 令和7年1月13日（月）まで

○意見内容： 名・団体様より、 件のご意見をいただきました。

| 基本計画の項目 | 意見数 |
|-----------------------|-----|
| 計画全般 | 4件 |
| 第1章 基本構想策定の経緯 | 0件 |
| 第2章 工業研究所の現状と課題 | 0件 |
| 第3章 三重県の製造業の産業構造と将来展望 | 0件 |
| 第4章 県内企業・業界団体の声 | 0件 |
| 第5章 他県の試験研究機関の取組 | 0件 |
| 第6章 有識者意見交換会の内容 | 0件 |
| 第7章 工業研究所のあるべき姿 | 0件 |
| 第8章 拠点見直しの方向性 | 0件 |
| 合計 | 4件 |

○寄せられたご意見に対する対応状況

| 対応区分 | 意見数 |
|---------------------------------------|-----|
| ①反映 最終案に意見や提案内容を反映させていただくもの | 0件 |
| ②参考 最終案や今後の取組に意見や提案内容を参考にさせていただくもの | 4件 |
| 合計 | 4件 |

| 番号 | 該当箇所 | ご意見 | ご意見に対する考え方 | 対応区分 |
|----|------|--|--|------|
| 1 | 全般 | <p>当社は、地場産業である萬古焼きメーカーに対し、耐熱陶土をはじめ多品種の製土（坏土）を生産し、使用いただいております。近年それに使用する原料（国外産、国内産を問わず）の供給が不安定となり、今後その傾向は、ますます強まると予想されます。</p> <p>製土の品位の安定が、萬古焼製品の品質の安定に直結することとなります。そのため、これまで、原料の選定、配合の変更等に関し、窯業研究室の試験機器利用、依頼試験、問題解決に対する助言、相談等、窯業研究室に大変お世話になっております。今後ますますその重要性は増すものと考えております。</p> <p>又、製造技術の高度化、及び廃棄物の発生抑制（リサイクル推進）に向け、研究室の技術支援をいただきながら進めていくべき事柄が多々想定されます。今後も窯業研究室の分析、試作機器、及び陶磁器専門知識が豊富な人材の充実強化を求めます。</p> | | |
| 2 | 全般 | <p>四日市萬古焼で土鍋の生産を行っていますが2023年から始まったペタライト問題等の原材料問題や、燃料の高騰に対する問題、環境に対するCO2排出の問題等、伝統産業ながら事業継続を揺るがすような環境の変化が次々と起こっています。ひとつの会社では、対応できない技術的問題が依然より、大きくなっているような気がします。</p> <p>科学的な知見をもった、技術者の研究機関としての窯業研究室の役割が今後も非常に必要になってきます。</p> <p>この存在が、陶磁器の産地間の競争、耐熱陶器の優位性の確立の大きく関係してきます。</p> <p>また、将来の商品開発への提案等デザイン力の強化もやっていただきたいです。以前は、デザイン等に関する講義や、共同開発が窯業研究室の指導で盛んにおこなわれており、20年近く経った現在でも影響を受ける商品作りがされています。ぜひ、窯業関係の技術、組織の強化をお願いします。</p> | <p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>今般の「基本計画（中間案）」では、建替え再整備を行う2拠点（現窯業研究室(四日市市)・現本所(津市))における具体的な技術支援機能の配置や産学官連携の方針等を示すとともに、津高等技術学校との一体整備を含む施設整備にかかる要件等を整理しており、今後、最終案を経て、本年度内（令和7年3月）に「基本計画」の策定・公表を予定しています。</p> <p>ご意見いただいた窯業分野をはじめ、各産業分野における具体的な技術支援のための体制・機能の充実に向けては、この基本計画を踏まえて、次年度以降の施設設計の段階において、引き続き、利用企業・団体等のご意見も丁寧にお聴きしながら、一層の具体化を検討してまいります。</p> | ②参考 |
| 3 | 全般 | 再整備につきましては、期待しております。是非とも早急に進めていただきたい。 | | |
| 4 | 全般 | <p>昨年、工業研究所の建て替え、再整備の基本構想が策定され、本年度は基本計画の策定に取り組んでいただき、「本所・連携の総合拠点（津市）」と「ものづくりの総合拠点（四日市市）」として整備されることは非常に喜ばしく、老朽化が激しい建物や機械・設備が一新されるのに大きな期待を持っております。</p> <p>その一方で、職員の不足と予算の不足に大きな心配を抱いております。研究職員は定年などで減少しても新たな補充がなされていません。また、新たな試験や開発の研究を願っても十分な予算が無いため、必要な時に迅速に求める研究が叶わないのが現実です。</p> <p>建物や機械・設備が整備されましたなら、工業研究所の必要性が一層増して、機能が期待されます。ぜひ人員と予算につきましてもご検討ください。</p> | | |